

います。その民間の力の源はリスクを抱えるところにあると思うが、そのリスクを町が取り払ってあげて本当に結果が出せると思うか。

答 民間活力を考えると随分頑張っていると思いますし、町の施設であり信用力のある会社に任せなければ、町民の理解が得られないという思いからSRSSをお願いすべきと考えています。

問 布場スキー場は諦めるのか。
答 現状ではやむをえないと思っています。

問 湯沢町の観光産業が大きく変わる転換期における契約更新です。「まちづくり基本条例」に沿ってどう町民に公開し、声を聞くのか？
答 広報等で状況報告は発信しなければならぬと思う。

問 多額の要求を伴う契約更新で、住民の意向を聞かずに決めていいのか？
答 今は提案であり要求ではない。町も提案が全部出来とは思っていない。内部と町民代表と相談して決めたい。

※この問題については10月中旬に再度議員協議会を開催するこ

とになった。

2 総合文教施設整備の概要について

現在までの経過及び変更内容と今後の予定について町の説明を聞き調査しました。

建物全体の面積が交流施設・体育館・屋内プール等の新設により約3,000㎡増加し事業費が約3億円増える予定である。

問 小・中一一体型校舎の設計はどうなるのか。どこまで進んでいるのか。
答 基本設計にパブリックコメントをもとめ、同時に学校の教職員や保育所の職員と図面について打ち合わせしている。今後文教施設整備委員会で検討してゆき、町民にもお知らせする。

問 パブリックコメントでの意見の対応はどうするのか。
答 三つの委員会の意見をいただいている段階であり、終了したら公表する予定である。

問 パブリックコメントの回答では、面積が1,000㎡増えたので3億円増加したということだったが、増加面積は3,000

㎡なのか。また、当初は屋内プールは予定されていなく、新たに設置されたのか。

答 面積が1,000㎡増えて3億円増加することは、昨年10月に説明している。今回、交流施設の設置や屋内プールの設置により上屋や機械室が増えてきて約3,000㎡の増加となった。面積が増えていくが、坪当たり建築費が下がってきていることもあり、総事業費の41億円は変わらない。

問 今月開かれた二つの分科会でも、可動床式のプールの是非が議論されたが、費用は通常の2倍とのことだが、おおよそいくらかかるのか。
答 概算で1億7千万円から2億円くらいである。

問 可動床式は2倍の費用がかかる。教育分科会でも他の方法でもよいという意見が出ていた。また、一般町民の開放は考えているのか。
答 教育分科会でも大きな議論があった。小中が共用で使うので、可動床式でないと教職員が対応出来ない。町民での開放は分科会でさらに検討する。

問 既存の50㎡プールはどうするのか。
答 安全上の問題から残土で埋め戻し、駐車場としての活用を考えている。

3 その他について

スキー場振興協議会から提出された借地料の減額要望書について平成23年4月1日から2年間30%を減額する案を議会承認。12月議会に変更契約の同意を求め。

湯沢町暴力団排除条例(案)について説明を受ける。



▲傍聴席



パブリックコメント：
町民の意見を反映させよりよい行政を目指すため、規則など定める前に、意見を聴取すること。